

# 原子力 広報

No.50

\*今年度から「原子力広報」は「広報薩摩川内」で掲載します。



【問合せ】＝本庁原子力安全対策室  
原子力安全対策グループ Ⅳ(23)5111(内線 4632)

## ●夏休み親子見学会

- 【時】 Ⅱ 8月4日(金) 10時～16時
- 【集合場所】 Ⅱ 川内文化ホール前および樋脇・入来・東郷・祁答院の各支所(見学会先までは、貸し切りバスを使用)
- \* 集合場所までは各自で集合してください。
- 【見学会先】 Ⅱ 川内原子力発電所および鶴田ダム(状況により見学会先が変更になる場合もあります)
- 【対象】 Ⅱ 川内・樋脇・入来・東郷・祁答院地域の小・中学生とその保護者
- 【定員】 Ⅱ 80人
- \* 定員になり次第、締切
- 【参加料】 Ⅱ 無料(昼食は準備します)
- 【申込締切】 Ⅱ 7月21日(金)
- 【申込方法】 Ⅱ 直接、電話
- 【当日必要なもの】 Ⅱ 大人は顔写真付きの身分証明書(マイナンバーカード・住民基本台帳カード・運転免許証・パスポートのいずれか)、小・中学生は、マイナンバーカードまたは保険証
- 【申込・問合せ】 Ⅱ 本庁原子力安全対策室(原子力安全対策G(内線4632))

市では、原子力発電所およびエネルギーに関する知識を深めてもらうことを目的に、川内原子力発電所などの見学会を次のとおり開催します。ぜひ参加ください。  
\*この事業は、国からの広報・調査等交付金を利用して行います。

## 川内原子力発電所見学会 参加者・参加団体募集

## ●グループ見学会



- 【時】 Ⅱ 夏休み期間中
- \* 施設の都合により、見学会できない日があります。
- 【集合場所】 Ⅱ 串木野新港待合所(見学会先までは、貸し切りバスを使用)
- \* 集合場所までは各自で集合してください。
- 【見学会先】 Ⅱ 川内原子力発電所ほか
- 【対象】 Ⅱ 里・上甕・下甕・鹿島地域の小・中学生を主とした団体とその引率者
- 【参加料】 Ⅱ 無料(交通費のうち、往復の船賃は市で負担します)
- 【申込締切】 Ⅱ 希望日の20日前
- 【申込方法】 Ⅱ 直接、電話
- 【当日必要なもの】 Ⅱ 大人は顔写真付きの身分証明書(マイナンバーカード・住民基本台帳カード・運転免許証・パスポートのいずれか)、小・中学生は、マイナンバーカードまたは保険証
- 【申込・問合せ】 Ⅱ 本庁原子力安全対策室(原子力安全対策G(内線4632))
- \* 見学会終了後にアンケートへの協力をお願いします。

## 市民団体見学会を開催しました

本年1月17日(火)に上甕地区コミュニティ協議会を対象とした川内原子力発電所等見学会を開催しました。15人が参加し、川内原子力発電所展示館と川内原子力発電所構内などを見学。展示館では、川内原子力発電所の概要と安全対策についてビデオ鑑賞した後、発電所の実物大の模型などを見ながら、発電の仕組み、放射線に関することなどを学びました。

また、発電所構内をバスで巡り、安全対策のための資機材が配備してある緊急用保管エリアや海水ポンプエリアの津波対策の状況などを確認しました。その後、「川内クリーンセンター」や「消防局防災研修センター」の見学も行いました。



## 「参加者の声」

- 各種安全対策が講じられていることは分かったが、日常の職務でマニュアル通りの業務遂行をさせていただきたい。
- 福島で発生した現象への対策は行われているように思われたが、「想定外」の言葉が出ないようにしてもらいたい。
- 今までは、本当に大丈夫だろうかかと不安だったが、見学会に参加して少し安心した。
- 風力・太陽光の他に、次世代エネルギーの開発を早く考えていただきたい。
- 今後もさらなる安全対策に力を入れていただきたい。



## 川内原子力発電所運転状況など

川内原子力発電所の運転状況は、次のとおりです。  
\*九州電力(株)からの提供資料を基に作成しています。

### ●発電所の運転状況(1・2号機)

	平成28年			平成29年		
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1号機	出力89万キロワット	営業運転開始/昭和59年7月	1/6 通常運転復帰	定期検査	通常運転	
2号機	出力89万キロワット	営業運転開始/昭和60年11月	3/24 通常運転復帰	通常運転	定期検査	

### ●発電電力量(1・2号機合計) 平成29年3月分

発電電力量の合計	約13.9億kWh	設備利用率	104.8%
----------	-----------	-------	--------

\*設備利用率: 発電電力量 ÷ (認可出力 × 暦日時間) × 100  
\*定格熱出力一定運転導入(平成14年)により、設備利用率が100%を超えることがあります。この「定格熱出力一定運転」とは、原子炉から発生する熱量(原子炉熱出力)を国から認められた最大値付近で一定に保って運転する方法で、海水温度に応じて電気出力は変化します。

### ●低レベル放射性廃棄物(気体) 1・2号機合計

平成28年4月1日～平成29年3月31日

放出量	年間放出管理目標値(参考)
3.1 × 10 <sup>8</sup> ベクレル	1.7 × 10 <sup>15</sup> ベクレル

\*目標値内であり、適切に管理されています。

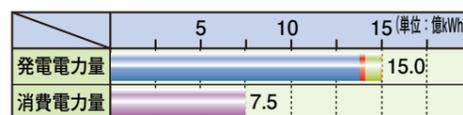
### ●低レベル放射性廃棄物(固体) 1・2号機合計

平成29年3月31日現在

貯蔵量	貯蔵率
24,822本	67.1%

\*1本当たり200Lドラム缶相当 \*貯蔵容量 約37,000本

### ●県内の発電電力量と消費電力量(平成29年3月分)



(発電電力量内訳) (単位: 億kWh)

原子力 13.8	地熱・風力 0.3
火力 0.8	水力 0.1

\*四捨五入の関係上数値が合わない場合があります。

### ●使用済燃料の貯蔵状況(平成29年3月31日現在)

	500			1,000			1,500 (単位: 体)		
	貯蔵容量	使用済燃料	再使用燃料	計	貯蔵率				
1号機	1,868体	1,160体	16体	1,176体	63.0%				
2号機	1,356体	833体	29体	862体	63.6%				